

**第13回「芥川作曲賞」決まる
山本裕之氏の作品「カンティクム・トレムルムⅡ」に**

「芥川作曲賞」の第13回受賞曲は、8月31日（日）午後3時から東京・サントリーホールでの演奏会による公開選考の結果、山本裕之氏作曲の「カンティクム・トレムルムⅡ」に決定しました。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られました。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故 芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したものです。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考を行うという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっています。なお、この日、公開選考に先だって、第11回受賞者・原田敬子氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作品「第3の聴こえない耳Ⅲ～オーケストラのための」の初演が行われました。

▽第13回芥川作曲賞

山本 裕之（やまもと・ひろゆき）

<贈賞理由>

揺れ動く音を素材とし、意外性かつ独創性ある展開が高く評価された。

<略歴>

1967年3月7日山形市生まれ、神奈川県逗子市出身。90年東京芸術大学音楽学部作曲科卒業、92年同大学院作曲専攻修了。作曲を北村昭、近藤譲、松下功の各氏に師事。これまでに89年第58回日本音楽コンクール作曲部門第3位、96年現音作曲新人賞、98年 BMW musica viva 作曲賞第3位（ドイツ）、2002年度武満徹作曲賞第1位などを受賞。また、ガウデアムス国際音楽週間‘94（オランダ）、ISCM世界音楽の日々（ルクセンブルク／2000、横浜／2001）など、様々な音楽祭に入選している。作品は Le Nouvel Ensemble Moderne、Nieuw Ensemble、バイエルン放送交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、カイロ交響楽団など、各地の演奏団体により演奏され、またラジオで放送されている。90年より在京の作曲家集団「TEMPUS NOVUM」メンバー。また2002年からはピアニスト中村和枝氏とのユニット活動「claviarea」を開始し、コンサートの企画を行う（<http://sound.jp/claviarea/>）。現代音楽に関するホームページ「音ヲ遊ブ」（<http://www.netlaputa.ne.jp/~hyama/>）を96年より主宰。現在岩手大学教育学部専任講師。

第13回芥川作曲賞 選考経過

1. 2003年3月31日（月）午後1時より東京紀尾井町、ガーデンコートクラブにおいて第1次選考会を開催。2002年1月1日より2002年12月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第13回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は近藤譲、野平一郎、林光の3氏。（50音順）

◆加藤 真一郎 作曲 <キュクロシス>

初演：2002年3月18日 府中の森芸術劇場どりーむホール
桐朋学園オーケストラ演奏会「新曲と協奏曲の夕べ」

◆斉木 由美 作曲 <アントモフォニー>

初演：2002年6月23日 しらかわホール
しらかわシンフォニア2002-2003
「第3章・幻想の深みへ ― 時をたゆたう調べ」
(委嘱=いずみ・紀尾井・しらかわ3ホール共同)

◆山本 裕之 作曲 <カンティクム・トレムルムⅡ>

初演：2002年5月26日 東京オペラシティコンサートホール
コンポージアム2002「2002年度武満徹作曲賞本選演奏会」

(50音順)

2. 2003年8月31日（日）、午後3時よりサントリーホールにおいて上記3曲を公開演奏（指揮=小松一彦、管弦楽=新日本フィルハーモニー交響楽団）。演奏終了後、ステージにおいて3選考委員による公開討議（司会=沼野雄司氏）を行った結果、「第13回芥川作曲賞」受賞曲に山本裕之氏の作曲による「カンティクム・トレムルムⅡ」が選定された。
3. 公開選考終了後、直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、サントリー音楽財団専務理事 前和夫により賞状、賞金（50万円）が授与された。
なお、山本裕之氏にはサントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成後に同財団主催のコンサートで初演される。（委嘱料100万円）

以 上